

# 自己認知における「私」「みられる私」が パーソナリティの満足度に与える効果について

The effects of self and reflected self perception on satisfaction with personality

弘前大学保健管理センター

田名場 美 雪

弘前大学保健管理センター

佐 藤 清 子

弘前大学保健管理センター

佐々木 大 輔

弘前大学教育学部附属教育実践総合センター

田名場 忍

パーソナリティ認知構造を基にして、どの次元における「私がみる私」「他者みられる私」の一致・不一致が自分への満足度に影響するか検討した。結果、「私」「みられる私」ともに積極性、安定性、社会的望ましさという3つの観点から考えることができた。積極性と安定性についての「私」の認知がパーソナリティの満足度に影響を与え、社会的望ましさについては「私」「みられる私」間の自己認知の不一致が自分のパーソナリティへの満足度の低さをもたらすことがわかった。

- 
- 1 問 題
  - 2 目 的
  - 3 方 法
  - 4 結 果
  - 5 考 察
- 

キーワード：自己認知，パーソナリティ，メンタルヘルス

## 1 問 題

自分自身のパーソナリティをどのようにとらえるかにおいて、「私の視点」の他に「他者の視点」が重要になる場合がある。自分自身によるイメージと他者によるイメージが一致していると感じた場合、「わかってもらえる」という満足感が得られることもあるだろう。しかし、自分自身を不誠実であると考えている人間が、他者からも不誠実であるとみなされていると実感した場合、一致したという理由で満足するだろうか。一致が必ずしも満足をもたらすものではない。次に不一致の場合を考えてみる。「私は、友達が言うほど冷たい人間じゃない」「私は、みんなが思っているほど優しい人間ではない」と嘆くこともある。一方で、「友達は私のことをおとなしい人間だと思っているようだけど、私は自分のことをそんなにおとなしいとは思っていない。そんな自分が大好き」と自分自身に満足することもあるだろう。つまり、「私がみている私」「他者からみた私」の一致の程度が自分自身への満足の程度に単純には反映しないことが予測される。

本研究では、どの領域における「私がみている私」「他者からみた私」の一致度が満足度に影響を及ぼすのか検討する。私あるいは自分にはいくつもの領域を想定できるだろう。たとえば、外見、生き方、パーソナリティなどがあるが、本研究ではパーソナリティに焦点を当てる。

パーソナリティとは、個人に特徴的で安定的な行動傾向を示すタームとして使用されている。このような、場面や状況の差を越えて一貫し安定した行動傾向などはそもそも存在しないという考え方もあるが (Mischel, 1968)、本研究ではパーソナリティを安定的な行動傾向として扱うものとする。我々は一般に、自らの過去経験からパーソナリティというものについての素朴な信念体系をもっており、これを

もとに様々な情報処理を行い、自他のパーソナリティの全体像を形成する。このような素朴な信念体系は暗黙のパーソナリティ観 (implicit personality theory) と名付けられている (Cronbach, 1955)。つまり、現実生活場面で、我々が自他のパーソナリティを認知する場合、対象人物のリアルな特性そのものを正確に反映させているというよりも、むしろ、個々人が自分なりの認知カテゴリー (すなわち、暗黙のパーソナリティ観) を保持し、これに基づいて自他のパーソナリティを理解していることになる。

このような考え方に基づく多数の研究をふまえ、林 (1978) はパーソナリティ認知構造を構成する基本的な次元として「個人的親しみやすさ」「社会的望ましさ」「力本性」の3つを設定できるとしている (表1 参照)。この基本3次元は、20項目からなる尺度評定から得られ、従来の研究 (林・大橋, 1983; 大橋, 1984; 田名場, 1993; 廣岡, 1997) で安定的に抽出されてきている (表2 参照)。

上述したパーソナリティ認知研究の観点から、「私がみている私」「他者からみた私」の一致が満足を導きやすいパーソナリティの領域、不一致が満足を導きやすいパーソナリティの領域、一致・不一致とは関連のないパーソナリティの領域があると想定し、その領域を探索的に検討する。

表1 パーソナリティ認知の基本3次元

基本3次元	下位次元
個人的親しみやすさ (好感・親和などの社会・対人評価)	あたたかさ, 温厚性, やさしさ, 親近性, 愛想の良さ, 人なつっこさ, 明朗性, etc...
社会的望ましさ (尊敬・信頼などの知的・課題関連の評価)	誠実性, 道徳性, 良心性, 理知性, 信頼性, 堅実性, 細心さ, etc...
力本性 (意志の強さ+活動性)	外向性, 社交性, 積極性, 自信の強さ, 意欲性, 大胆さ, 粘着性, etc...

表2 先行研究の結果

	田名場 (1993)			大橋 (1984)		
	第1因子 個人的 親しみやすさ	第2因子 力本性	第3因子 社会的 望ましさ	第1因子 個人的 親しみやすさ	第2因子 社会的 望ましさ	第3因子 力本性
心のせまい - 心の広い	0.59	0.16	-0.45	0.64	0.12	0.25
親しみにくい - 親しみやすい	0.79	0.13	-0.12	0.72	-0.31	0.19
親切な - 不親切な	0.61	-0.11	0.40	-0.75	-0.21	-0.11
人のよい - 人のわるい	-0.69	0.02	0.45	-0.74	-0.09	0.01
近づきたい - 人なつっこい	0.82	0.16	-0.11	0.67	-0.38	0.21
かわいらしい - にくらしい	-0.66	-0.10	0.19	-0.72	-0.08	0.07
感じのよい - 感じのわるい	-0.73	-0.13	0.38	-0.79	-0.15	-0.14
なまいきな - なまいきでない	0.38	-0.17	-0.56	0.63	0.28	-0.31
責任感のある - 責任感のない	-0.14	-0.37	0.59	-0.33	-0.61	-0.33
慎重な - 軽率な	-0.07	0.20	0.65	-0.05	-0.78	0.04
軽薄な - 重厚な	0.28	-0.06	-0.67	-0.03	0.73	0.00
うきうきした - 沈んだ	-0.41	-0.47	-0.25	-0.39	0.52	-0.41
無分別な - 分別のある	0.18	0.06	-0.46	0.30	0.68	0.20
恥ずかしがりの - 恥しらずの	-0.01	0.68	0.29	-0.22	-0.58	0.47
社交的 - 非社交的な	-0.35	-0.61	-0.08	-0.41	0.40	-0.54
意欲的な - 無気力な	-0.19	-0.62	0.26	-0.15	-0.18	-0.66
自信のある - 自信のない	0.12	-0.67	0.02	0.20	0.04	-0.74
消極的な - 積極的な	0.18	0.75	0.12	0.06	-0.18	0.76
卑屈な - 堂々とした	0.08	0.62	-0.07	0.14	0.15	0.51
短気な - 気長な	0.32	-0.28	-0.49	0.42	0.28	-0.29
因子寄与率	21.0	16.2	14.5	24.3	16.6	15.1

## 2 目的

本研究では、多数の人々に安定的に共通してみられるパーソナリティ認知構造を基にして、どの次元における「私がみる私」（以下、「私」と略記）「他者みられる私」（以下、「みられる私」と略記）の一致・不一致が満足に影響するか検討する。そのために、次の二点を明らかにする。

- ① 「私」「みられている私」のパーソナリティ認知構造
- ② ①と自分のパーソナリティへの満足度との関連性

## 3 方法

平成14年度全新生(1378名)を対象に郵送法による質問紙調査を実施し、以下について質問を行った。分析対象者は855名(男子331名、女子524名)、平均年齢は18.5歳である。次の質問へ回答を求めた。なお、質問紙上では“パーソナリティ”よりもなじみのある“性格”という用語を用いた。

- ① 20対のパーソナリティ特性語尺度上における「私」「みられる私」の7段階評定(使用尺度は、表2参照)を求めた。それぞれの教示は、以下のとおりである。
  - ・「私」についての評定を求める教示：  
以下には、性格をあらわすことばが対になって示されています。それぞれについて「現在のあなた」に最も近いところに○をつけて下さい。
  - ・「みられる私」についての評定を求める教示：  
次に、あなたをよく知っている人を1人思い浮かべてください。その人はあなたをどのように思っているのでしょうか。それぞれについて最も近いところに○をつけて下さい。
- ② 自分のパーソナリティへの満足度についての7段階評定

## 4 結果

### (1) 認知構造

私が私を評価した場合の「①私」、自分のことをよく知っている他者が私のことをどのように評価しているかについての予測である「②みられる私」についてそれぞれ因子分析(主因子法、非反復法、バリマックス回転)を施し、先行研究に基づき次の3因子を抽出した(表3参照)。因子負荷量に若干の違いはみられるもののその構造はほぼ等しいといえる。以下に詳細を述べる。

- ① 「私」についての認知構造  
第1因子「積極性」、第2因子「社会的望ましさ」、第3因子「安定性」
- ② 「みられる私」についての認知構造  
第1因子「積極性」、第2因子「安定性」、第3因子「社会的望ましさ」

#### 1) 「私」の認知構造

第1因子に高い因子負荷量を示したパーソナリティ特性語(以下、特性語と略記)は、「社交的-非社交的」「恥ずかしがり-恥しらずの」「親しみやすい-親しみにくい」「意欲的な-無気力な」「自信のある-自信のない」「消極的な-積極的な」「近づきたい-人なつっこい」「うきうきした-沈んだ」「卑屈な-堂々とした」「感じのよい-感じのわるい」であった。積極的、社交的で自信のある自分を親しみやすく感じのよい存在として認知しているとみることができ、この第1因子を「積極性」と命名した。

表3 因子分析の結果（「私」「みられる私」の認知構造）

	① 私			② みられる私		
	第1因子 積極性	第2因子 社会的 望ましき	第3因子 安定性	第1因子 積極性	第2因子 安定性	第3因子 社会的 望ましき
社交的 — 非社交的な	0.72	-0.13	-0.08	0.70	-0.20	0.03
意欲的な — 無気力な	0.65	-0.40	0.05	0.67	-0.16	-0.31
自信のある — 自信のない	0.61	-0.10	-0.03	0.66	0.10	-0.26
恥ずかしがりの — 恥しらずの	-0.56	-0.37	-0.03	-0.56	-0.11	-0.28
消極的な — 積極的な	-0.82	0.10	-0.08	-0.81	0.09	0.03
近づきがたい — 人なつっこい	-0.66	-0.07	0.31	-0.55	0.49	-0.21
うきうきした — 沈んだ	0.68	0.08	-0.15	0.66	-0.3	0.21
卑屈な — 堂々とした	-0.61	0.14	0.14	-0.59	0.11	0.29
親しみにくい — 親しみやすい	-0.68	0.00	0.28	-0.50	0.52	-0.16
感じのよい — 感じのわるい	0.57	-0.27	-0.48	0.40	-0.69	-0.16
心のせまい — 心の広い	-0.33	0.12	0.57	-0.20	0.66	0.25
短気な — 気長な	0.06	-0.03	0.70	0.24	0.57	0.13
人のよい — 人のわるい	0.33	-0.37	-0.57	0.22	-0.72	-0.25
なまいきな — なまいきでない	0.21	0.23	0.60	0.25	0.63	0.15
かわいらしい — にくらしい	0.30	-0.06	-0.52	0.15	-0.56	-0.08
親切な — 不親切な	0.34	-0.41	-0.43	0.28	-0.64	-0.33
責任感のある — 責任感のない	0.31	-0.70	0.03	0.31	-0.15	-0.62
慎重な — 軽率な	-0.15	-0.70	-0.09	-0.17	-0.10	-0.70
軽薄な — 重厚な	0.07	0.62	0.22	0.10	0.19	0.71
無分別な — 分別のある	-0.15	0.62	0.14	-0.13	0.26	0.60
因子寄与率	24.87	12.82	12.48	21.51	18.60	12.43

第2因子に高い因子負荷量を示した特性語は、「責任感のある—責任感のない」「慎重な—軽率な」「軽薄な—重厚な」「無分別な—分別のある」であった。責任感と慎重さと重厚さ、分別がひとまとまりになっていることから、この第2因子は「社会的望ましき」と命名した。

第3因子に高い因子負荷量を示した特性語は、「心のせまい—心の広い」「短気な—気長な」「人のよい—人のわるい」「なまいきな—なまいきでない」「かわいらしい—にくらしい」であった。心の広さ、気長な、人のよい、なまいきでない、かわいらしいがひとまとまりになっていることから、この第3因子を「安定性」と命名した。

## 2) 「みられる私」の認知構造

第1因子に高い因子負荷量を示した特性語は、「社交的—非社交的な」「恥ずかしがりの—恥しらずの」「親しみやすい—親しみにくい」「意欲的な—無気力な」「自信のある—自信のない」「消極的な—積極的な」「近づきがたい—人なつっこい」「うきうきした—沈んだ」「卑屈な—堂々とした」であった。積極的、社交的で自信のある自分を親しみやすい存在として認知しているとみることができ、この因子を「積極性」と命名した。

第2因子に高い因子負荷量を示した特性語は、「心のせまい—心の広い」「親しみやすい—親しみにくい」「短気な—気長な」「親切な—不親切な」「人のよい—人のわるい」「なまいきな—なまいきでない」「かわいらしい—にくらしい」「感じのよい—感じのわるい」であった。心の広さ、親しみやすさ、気長な、人のよい、なまいきでない、かわいらしい感じのよさがひとまとまりになっていることから、この第2因子を「安定性」と命名した。

第3因子に高い因子負荷量を示した特性語は、「責任感のある—責任感のない」「慎重な—軽率な」「軽

薄な-重厚な」「無分別な-分別のある」であった。責任感と慎重さと重厚さ、分別がひとまとまりになっていることから、この第3因子は「社会的望ましさ」と命名した。

(2) 満足度との関連

1) 満足度

自分のパーソナリティへの満足度の平均得点は4.2点 (SD=1.4) であった。どちらかと言うと満足しているという結果であるが、分散が大きいことから、個人差の大きいことが予測される。

2) 自己認知が満足度に及ぼす効果

因子分析の結果から、因子負荷量の高い項目を選択し「積極性尺度」「安定性尺度」「社会的望ましさ尺度」を作成し(表4 参照)、各合計点を算出した。この合計点により対象者をそれぞれ3分割し(平均合計点±0.43SD) 高得点群と低得点群を得た。そして、自分のパーソナリティへの満足度への影響を、「私」(高低2水準)、「みられる私」(高低2水準)の2要因分散分析により検討した。次の結果が得られた。

表4 各尺度に使用した項目

項 目	尺 度 名	
社交的 恥ずかしがりの 意欲的な 自信のある 消極的な うきうきした 卑屈な	-非社交的な -恥しらずの -無気力な -自信のない -積極的な -沈んだ -堂々とした	積極性 積極性 積極性 積極性 積極性 積極性
心のせまい 短気な 人のよい なまいき かわいらしい	-心の広い -気長な -人のわるい -なまいきでない -にくらしい	安定性 安定性 安定性 安定性 安定性
責任感のある 慎重な 軽薄な 無分別な	-責任感のない -軽率な -重厚な -分別のある	社会的望ましさ 社会的望ましさ 社会的望ましさ 社会的望ましさ

- ① 積極性に関しては、「私」の主効果のみ有意であり、高群が低群よりも有意に満足度が高いことが示された ( $F(1, 363) = 35.09, p < .01$ ) (図1 参照)。
- ② 安定性に関しては、「私」の主効果のみ有意であり、高群が低群よりも有意に満足度が高いことが示された ( $F(1, 281) = 9.34, p < .01$ ) (図2 参照)。
- ③ 社会的望ましさに関しては「みられる私」「私」との間に有意な交互作用が認められた ( $F(1, 305) = 5.06, p < .05$ ) ため下位検定を行った。その結果、「みられる私」高群において「私」高群が低群よりも有意に満足度が高く ( $F(1, 305) = 7.15, p < .01$ )、「私」高群において「みられる私」高群が低群よりも有意に満足度が高いことが示された ( $F(1, 305) = 4.33, p < .05$ ) (図3 参照)。

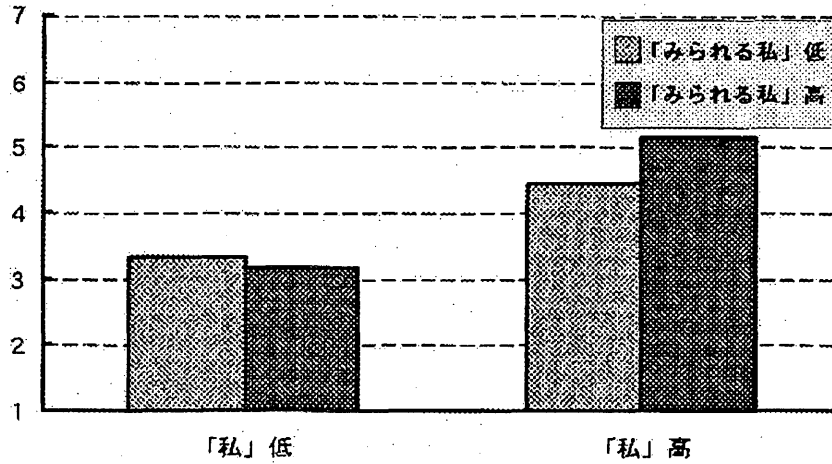


図1 「積極性」についての自己認知における満足度の比較

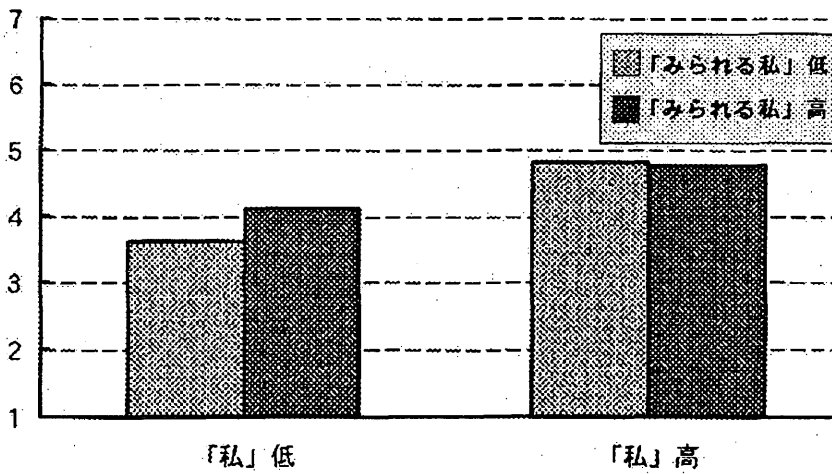


図2 「安定性」についての自己認知における満足度の比較

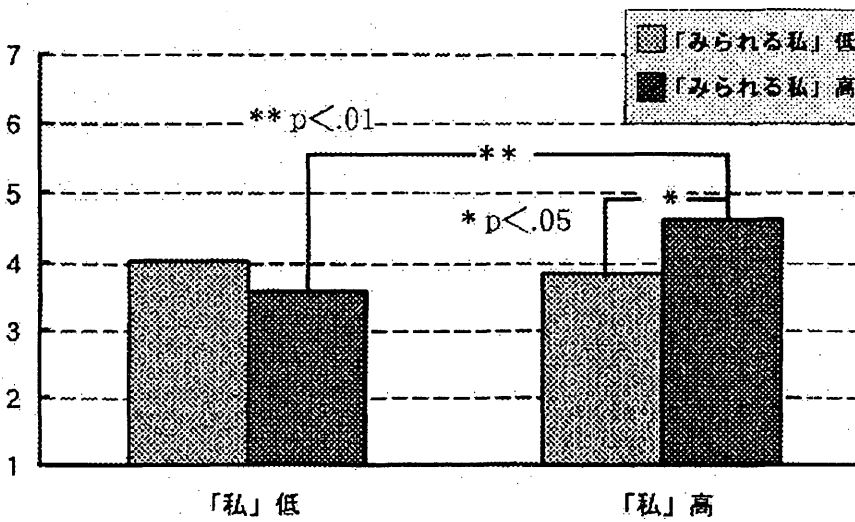


図3 「社会的望ましさ」についての自己認知における満足度の比較

以上の結果から次のことが言える。自分自身を積極性ありとみなしている人は、積極性が低いとみなしている人よりも自分自身のパーソナリティに満足する傾向がある。自分自身を安定性ありとみなしている人は、安定性が低いとみなしている人よりも自分自身のパーソナリティに満足する傾向にある。社会的望ましさに関しては、他者から社会的望ましさが高いと思われるとみなしている人の場合、自分自身を社会的望ましさが高いとみなしている人の方が低いとみなしている人よりも自分自身のパーソナリティに満足度が高い。自分自身の社会的望ましさを高いとみなしている場合、他者から社会的望ましさが高いと思われると自分自身をみている人の方が低いとみなしている人よりも自分自身のパーソナリティに満足している。

## 5 考察

### (1) 自己認知

私が私をどのようにみているか、他者は私をどのようにみているかという自己認知は、積極性・安定性・社会的望ましさという3つの観点から考えることができる。ただし、本研究では、先行研究と同様の形では「個人的親しみやすさ」の次元が抽出されなかった。

「個人的親しみやすさ」に、これまで安定的に高い因子負荷量を示してきた代表的な尺度が（表2参照）、本研究ではどのような因子負荷量となっているかみてる（表3参照）。「親しみやすいー親しみにくい」は、「私」では「積極性」因子に、「みられる私」においては、「積極性」因子と「安定性」因子の双方に高い因子負荷量を示している。「人のよいー人のわるい」は「私」「みられる私」ともに「安定性」因子にそれぞれ高い因子負荷量を示している。「人なつつこいー近づきたい」は「私」「みられる私」ともに「積極性」因子にそれぞれ高い因子負荷量を示している。

「感じのよいー感じのわるい」は「私」では「積極性」因子と「安定性」因子、「みられる私」では「安定性」に高い因子負荷量を示している。

つまり、「積極性」因子と「安定性」因子の双方に「個人的親しみやすさ」と従来命名されてきた尺度が関与している。したがって、これまで言われてきた社会・対人的評価としての「個人的親しみやすさ」といった認知次元は存在せず、変形として存在していると推測される。

このような変化が生じたことの要因としては、次の3つが考えられる。第一には、認知構造自体の変化である。本研究に使用した尺度は20年以上前に作成されたものであり、認知構造が変化していることも考えられる。我々が日常使用することばも変化していることからこの可能性は大きいと考える（田名場、2002）。第二には被評定人物が、私・みられる私に限定されていたこと、第三には対象者の属性である。

### (2) 自己認知が満足度に及ぼす効果

自分自身への満足度との関連について考察する。積極性と安定性に関しては「私」の自己認知の高低が満足度に関係する。「私は積極性がある」「私は安定性が高い」とみなすことが満足度につながる。一方、「社会的望ましさ」に関しては、「私」の自己認知が高くても「みられる私」の自己認知が低い場合、「みられる私」の自己認知が高くても「私」の自己認知が低い場合と満足度が低くなる。つまり、「自分では社会的望ましさがあると思っているが、他者はそのようにみてくれないようだ」「他者からは社会的望ましさがあるとみられているが、自分ではそう思わない」という自己認知の不一致が自分のパーソナリティへの満足度の低さにつながると言える。「社会的望ましさ」が信頼や尊敬に関わるものであることを考えると、自分で自分をどのように思っているだけではなく、あるいは自分でどのように行動するだけではなく、自分のふるまいが他者からどのようにみられているのかということが重

要になってくるのだろう。その際に不一致が自分自身のパーソナリティ全体への満足度の低さにつながってくると言える。

大学生のメンタルヘルス維持・向上に際して考えると、積極性・安定性においては「私が私をどのように考えるか」という点に援助の焦点を当てることが有効であろう。たとえば、関連する行動を増やすことを促したり、「私には積極性／安定性がある」というような現実認識の再検討が自己イメージを高め、自分自身のパーソナリティへの満足度向上につながるだろう。社会的望ましさに関しては、私がどう思うかという点ではなく他者との関係性に援助の焦点が当てることが有効であろう。自己認知と他者認知の溝を埋めるために、他者の視点を取り入れた認知枠組みを学習したり、行動化することが自分自身のパーソナリティへの満足度向上につながるだろう。

## 引用文献

- 1) Mischel, W. 1968 *Personality and assessment*. Wiley. [詫摩武俊(監訳) 1992 パーソナリティの理論 誠信書房]
- 2) Cronbach, L. J. 1955 Processes affecting scores on "understanding others" and "assumed similarity". *Psychological Bulletin*, 52, 177-193.
- 3) 林文俊 1978 対人認知構造の基本次元についての一考察 名古屋大学教育学部紀要(教育心理学科), 25, 233-247.
- 4) 林文俊・大橋正夫・廣岡秀一 1983 暗黙裡の性格観に関する研究(I), 実験社会心理学研究, 19, 9-25.
- 5) 大橋正夫 1984 「対人関係の社会心理学」 福村出版.
- 6) 田名場美雪 1993 「暗黙のパーソナリティ論」に関する研究 - 「暗黙のパーソナリティ論」の臨床への応用可能性をめぐって-, 岩手大学大学院人文社会科学部研究紀要第1号, 165-183頁. 7) 廣岡秀一・山中一英 1997 対人認知次元の構造的変化に関する縦断的研究, 実験社会心理学研究, 37, 37-49.
- 7) 田名場忍 2002 人格観検査の理論的検討と展望, 富士大学紀要, 62, 79-90.